

研修会報告レポート②

事業名：保育所保育指針・和歌山市版ガイドブック策定事業

No.01

開催日時	令和3年2月24日（水曜日）14：00～16：00
研修名	令和2年度（第2回）オンライン学習研修会
開催場所	オンライン研修会（配信本部／(有)ビッグウッド集会場）
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ■講師：馬場耕一郎先生（「ビデオ収録」講演＋大阪よりオンライン出演）監修者講演 ■講師：すとうあさえ先生（「ビデオ収録」講演＋東京よりオンライン出演）基調講演 ■参加者：民間保育協会、公立保育所含む 計41名／園 ■事務局：和歌山市民間保育協会職員研修部（冨森先生、大林先生）、幼年機構 飯田
研修テーマ	和歌山の食を知り、食との関りから保育を考える Vol.2
【研修概要】	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>令和2年度 和歌山市民間保育協会 指針研修【2月24日】</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p style="text-align: center;">（配信本部）</p> </div> </div> <p>1. 事務局からの報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開会の挨拶（冨森 研修部長） ○事務連絡（事務局 大林先生） <ul style="list-style-type: none"> ・私保連から依頼の広告の扱いと、研修会の運営等に関するご理解のお願いについて <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;"> <p>○前年度の実績報告（概括） （幼年教育・子育て支援推進機構 飯田）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワポ資料（別添）をもとに説明 </div> </div> <p>2. 【監修者講演】馬場耕一郎先生（内閣府子ども・子育て本部 上席政策調査員） 『次代を見据えた運用について 2021年』</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <p style="text-align: center;">《監修者講演》馬場先生</p> </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div>

研修会報告レポート②

事業名：保育所保育指針・和歌山市版ガイドブック策定事業

No.02

開催日時	令和3年2月24日（水曜日）14：00～16：00
研修名	令和2年度（第2回）オンライン学習研修会
開催場所	オンライン研修会（配信本部／(有)ビッグウッド集会場）
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ■講師：馬場耕一郎先生（「ビデオ収録」講演＋大阪よりオンライン出演）監修者講演 ■講師：すとうあさえ先生（「ビデオ収録」講演＋東京よりオンライン出演）基調講演 ■参加者：民間保育協会、公立保育所含む 計45名／園 ■事務局：和歌山市民間保育協会職員研修部（富森先生、大林先生）、幼年機構 飯田
研修テーマ	和歌山の食を知り、食との関りから保育を考える Vol.2
【研修概要】	<p>《次代を見据えた運用》</p> <p>○昭和の「〇〇〇さん一家」の家族や地域のイメージで保育が成り立ってきた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3世代同居の家庭と、地域との関わり合いがある風景 <p>○令和の時代の保育が変わってくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お家の方でも～しておいてくださいね！」というような保護者へのお願いが難しくなっている ・家庭における家事等が十分にできていなかったり、規則正しい生活習慣が身についていない保護者が増えてきている ・このような家庭の背景から、保護者にかかる育児の負担も園の方でカバーしなければならない状況になっている <p>○保育の質とは、「子どもたちが心身ともに満たされ、生きていくことを支える環境や経験」（OECD / 2015年）の表現が分かり易い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育環境を整えても心身が満たされていないと参加する子どもの意欲が伴ってこないため 家庭に向けた支援や子育て支援が重要となる ・年齢に応じた、季節の変化等に応じた配慮が、豊かさを感じ取ることができる環境と言える ・子どもたちが心身ともに満たされ豊かに生きるための環境、その上での経験が「保育の質」と考える <p>○保育の質の諸側面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志向性の質・・・法律、施策等 ・教育の概念と実践・・・保育所保育指針、幼稚園教育要領等 ・構造の質・・・物的環境（園舎・園庭・教材等）と、人的環境として日々の労働時間の問題～働きやすい環境が保育の質向上につながる <p>○職員の研修の概念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の研修の概念を払拭した園の実情に応じた研修の在り方（多様な働き方に配慮） ・長時間の研修より短時間の研修の頻度を高めた方が保育の質向上に繋がる ・専門性の担保（短時間／頻度／継続／園の職員全員） ・園児の様子を俯瞰して捉える（園庭で遊ぶ様子）ことにより保育の振り返りができる ・主体的に取り組んでいることを見守ることも、時には自ら乗り越えていくことを応援することも、愛着形成とともに付かず離れずの（保育者の）バランスが大切 ・園児が質の高い環境で過ごせるように、日々の積み重ねと、研修を通して園の実情に応じた良好な保育環境をつくることが重要 <p>《コロナ感染症の方策 ～ 打倒コロナ！》</p> <p>○日々の保育に加えてコロナ感染症対策は保育に係る負担がとて大きくなっているが、こういう時期だからこそ、ピンチをチャンスに変えるような取組む姿勢が大切</p>



研修会報告レポート②

事業名：保育所保育指針・和歌山市版ガイドブック策定事業

No.03

開催日時	令和3年2月24日（水曜日）14：00～16：00
研修名	令和2年度（第2回）オンライン学習研修会
開催場所	オンライン研修会（配信本部／(有)ビッグウッド集会場）
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ■講師：馬場耕一郎先生（「ビデオ収録」講演＋大阪よりオンライン出演）監修者講演 ■講師：すとうあさえ先生（「ビデオ収録」講演＋東京よりオンライン出演）基調講演 ■参加者：民間保育協会、公立保育所含む 計45名／園 ■事務局：和歌山市民間保育協会職員研修部（富森先生、大林先生）、幼年機構 飯田
研修テーマ	和歌山の食を知り、食との関りから保育を考える Vol.2
【研修概要】	<p>○例えば、手作り加湿器、アヒル人形と手洗い、ソーシャルディスタンスを学ぶあそび等</p> <p>○コロナ感染症によって働き方改革に繋がり、研修の在り方等も見直す機会となる</p> <p>○厚労省では感染症ガイドライン等の在り方を見直す必要もあるという認識を持ち始めている。三密や換気の対応、除菌・殺菌による免疫力の低下等が懸念されており、外遊びや泥遊び等を積極的に取り入れることも必要である。</p> <p>○保護者の不安はエビデンスをあげて説明するだけでは拭出来ないと思われるので、地域の実情に応じて対処することになる。</p> <p>○保護者説明において、園にも限界があるので常日頃から連絡を密に取り合っ保護者の理解と協力が得られるようにしておく必要がある。</p> <p>3. 【基調講演】すとうあさえ先生（童話作家） 『行事と行事食 Vol. 2』～夏から秋の行事と食、地域の行事食～和歌山市版</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>《七夕》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○星伝説（ひこ星と織り姫） ○乞巧奠（きっこうでん）習い事の神様 ○棚機つ女（たなばたつめ）読みの所以 ○笹飾り～笹は成長が早い、神が宿る 網は豊漁・豊作を表す 吹き流しは織姫の糸を表す 輪つなぎは願いが叶うように ○短冊（本来は紙ではなく梶の葉）に願いを書く ○行事食はそうめん ○七夕のおまじない 同じことを7回繰り返す ○七夕絵本の紹介「きつねのたなばたさま」「みんなのおねがい」 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>

研修会報告レポート②

事業名：保育所保育指針・和歌山市版ガイドブック策定事業

No.04

開催日時	令和3年2月24日（水曜日）14：00～16：00
研修名	令和2年度（第2回）オンライン学習研修会
開催場所	オンライン研修会（配信本部／(有)ビッグウッド集会場）
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ■講師：馬場耕一郎先生（「ビデオ収録」講演＋大阪よりオンライン出演）監修者講演 ■講師：すとうあさえ先生（「ビデオ収録」講演＋東京よりオンライン出演）基調講演 ■参加者：民間保育協会、公立保育所含む 計45名／園 ■事務局：和歌山市民間保育協会職員研修部（富森先生、大林先生）、幼年機構 飯田
研修テーマ	和歌山の食を知り、食との関りから保育を考える Vol.2
【研修概要】	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 65%;"> <p>《お月見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○十五夜・中秋の名月（旧暦 8/15）芋名月 十三夜（旧暦 9/13）栗名月 ○収穫を月に感謝する ○お飾り～月見団子（満月を模す） ススキ（狐の尻尾、手切草～清め） ○お月見のおまじない 他、他の家の月見団子を盗んでよい ○お月見絵本の紹介「だんごたべたいおつきさま」 ○おいしい行事絵本シリーズ「お月見パーティまんまんまる」 レシピ提供 川島雅子先生（お茶の水女子大学こども園／管理栄養士） <ul style="list-style-type: none"> ・「こどもが食に興味を持ち、食べることの喜びや大切さを知る」 （和食中心の給食／わくわくするような行事食／郷土料理の取組み） ・郷土料理「さといもだんご」、「とうふだんご と かぼちゃだんご のうさぎ」 <p>《収穫を祝う行事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お芋掘り絵本の紹介 「ほくほくおいもまつり」 ○亥の子（いのこ） <ul style="list-style-type: none"> ・旧暦10月亥の日に収穫を祝う行事 ・「亥の子餅」大豆、小豆、栗、棒、糖 <p>《和歌山の行事と食について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○秋の郷土料理 <ul style="list-style-type: none"> ・高野町「いんのこもち」 ・熊野灘「いもちち」 ・熊野地方「めはる寿司」 ○和歌山の行事食の例（給食メニュー） ○行事は伝承文化であり、地域において伝承されている祝い方＝行事食がある <ul style="list-style-type: none"> ・行事を食の活動に取り入れる ・美味しく、楽しく食べる ・地域への親しみの気持ちも芽生える ○キーワード 「ワクワクする行事食！」 <p>《郷土料理》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国の行事食が分かるサイト「郷土料理百選」 （農林水産省） ○地域の人達から聞いて調べることが大切 </div> <div style="width: 30%;">     </div> </div>

研修会報告レポート②

事業名：保育所保育指針・和歌山市版ガイドブック策定事業

No.05

開催日時	令和3年2月24日（水曜日）14：00～16：00
研修名	令和2年度（第2回）オンライン学習研修会
開催場所	オンライン研修会（配信本部／(有)ビッグウッド集会場）
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ■講師：馬場耕一郎先生（「ビデオ収録」講演＋大阪よりオンライン出演）監修者講演 ■講師：すとうあさえ先生（「ビデオ収録」講演＋東京よりオンライン出演）基調講演 ■参加者：民間保育協会、公立保育所含む 計45名／園 ■事務局：和歌山市民間保育協会職員研修部（富森先生、大林先生）、幼年機構 飯田
研修テーマ	和歌山の食を知り、食との関りから保育を考える Vol.2
【研修概要】	<p>4. 振り返り</p> <p>【すとう先生・馬場先生】</p> <p>○行事食のテーマを「めはる寿司」とすると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高菜（の葉）を栽培して収穫し、漬物にして行事の際に調理して頂くと言う一連の活動となる。 <p>⇨これは保育所保育指針・要領等の「地域の生活や季節の行事などに触れる際には、社会とのつながりや地域社会の文化への気付きにつながるものとなることが望ましいこと。その際、保育所内外の行事や地域の人々との触れ合いなどを通して行うこと等も考慮すること。」</p> <p>⇨「日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ」に繋がる。</p> <p>○養育力の低下等から、家庭では地域の伝統文化等に触れる余裕がないので園がカバーしていく必要がある。保育士がモチベーションをもって取組むことで継続性が高まっていく。</p> <p>○和歌山市では全園で袋栽培に取り組んでいるので、様々な活動事例から行事や地域の人々との触れ合いに繋がっていること等に気づき、また共有することができるものとなる。</p> <p>○「教育格差より、体験格差が深刻となっている」（明石要一先生／中教審）</p> <p>5. 活動報告レポート（「袋栽培」）について</p> <p>【馬場先生より全体講評】</p> <p>○成功事例だけでなく、失敗事例が報告されてきたことは貴重な活動体験をした事である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにとって失敗を体験したこと、それを共有したことが次へと繋がってくる。 <p>○収穫した野菜をパクンと食べられるようになったことは栽培活動の実体験の成果である。</p> <p>○絵本の「大きなカブ」に似ている！という感想が出たことを報告されたことは、実体験に乏しい子どもたちがリアルな活動「袋栽培」を通して、抽象的な「絵本」の世界と結びついていたと気づいたことが保育者にとっても成果となる。</p> <p>○このような体験の機会を作り出すことが保育者の務めである。</p> <p>○活動の様子が保護者の目にとまったということはリアルな情報提供となっており、保護者の理解、保護者からの支援等を得られるようになる。</p> <p>○今回の活動を振り返り、次回に繋げることが大切であり、また「自己評価ガイドライン」に繋げていくことも求められるようになる。</p> <p>6. 事務連絡等</p> <p>○職員研修部からのお知らせ</p> <p>○次回の予告／令和2年度（第3回）学習研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時：令和3年3月24日（水曜日）午後2時～ ・開催場所：未定 ・講演講師：馬場耕一郎先生（監修者） 国崎信江先生（危機管理教育研究所 危機管理アドバイザー） （基調講演）「園が担う防災計画と地域連携について」（仮題）